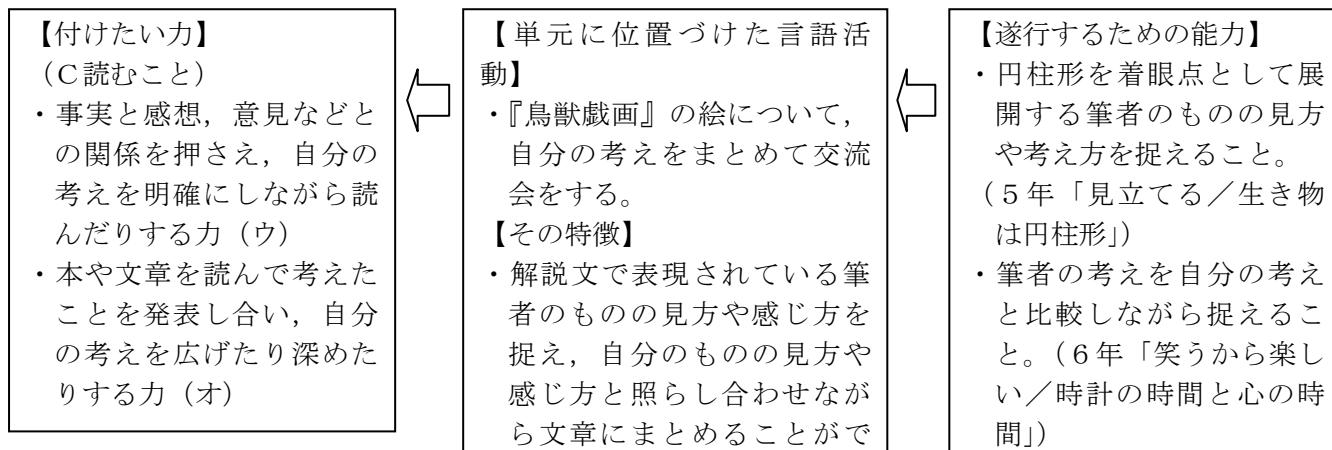


第6学年 国語科学習指導案

日時 平成29年 9月28日(木) 6校時
児童 6年3組 男14名 女14名 計28名
指導者 高橋 悦子

- 1 単元名 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう
教材名 『鳥獣戯画』を読む (光村図書 6年)

2 単元に位置付けた言語活動



3 単元について

(1) 児童について

児童は、「笑うから楽しい／時計の時間と心の時間」の学習で、主張と事例などの関係を押さえ、筆者が文章を書いた目的を考えたり、筆者の主張を捉えて自分の考えをもちながら読んだりする学習を行った。5年生の「天気を予想する」では、文章構成、図・表・グラフ・写真の意図を考え、説明の工夫を捉える学習をした。しかし、事実と筆者の感想を区別して読んだり、絵や文章を照らし合わせて読んだりする力が十分に身に付いているとはいえない。

交流活動については、国語科に限らずペアやグループという形態で自分たちの考えを交流し、自信をもって発表できるよう考えをまとめたり、教え合ったりする経験をしてきている。しかし、自分の考えを高めたい、全体での話し合いで生かしたいという意欲に欠ける。

(2) 教材について

小学校学習指導要領における第5学年及び第6学年「C読むこと」領域の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を捉えながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」である。本単元の指導事項は、「ウ目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」である。

『鳥獣戯画』を読むは、絵とそれに対する解説と解釈、評価が述べられた説明的文章である。筆者の絵に対する解釈と評価が中心に述べられているので、これまでの説明的文章で明確に表されていた「筆者の考え方」よりも「筆者のものの見方や感じ方」を捉えるのに適している。また、子供たちは自分なりの絵の解釈と比較しながら読むことができるので、ものの見方を広げることにもつながられる。さらに、ものの見方や感じ方を伝えるための筆者の工夫や表現の豊かさを学ぶこともできる。

(3) 指導にあたって

【研究内容1 言語活動を充実させる単元構成】

本単元では、「『鳥獣戯画』の絵について、自分の考えをまとめ、感想を交流し合う」ということを単元のゴールとして設定する。

【研究内容2 思いをもって伝え合う言語活動】

第一次では、筆者の見方や感じ方に迫るために、作品について知識をもち、作品に対する自分なりの思いや考えをもって読ませたい。そこで、「兎と蛙の相撲の場面」の絵を提示し、『鳥獣戯画』という作品に出会わせていく。

第二次は、文章を読み、筆者が『鳥獣戯画』をどのように見て、どのように考えているかを読み取り、それを自分の見方や感じ方と照らしながら、『鳥獣戯画』に対する自分の考えを広げたり深めたりしていく段階である。そこで、①絵と文章を照らし合わせて読み、筆者の評価とその対象を捉える。②筆者の見方を読者に伝えるための表現や構成の工夫を捉える。という流れで読み進めていく。

第三次では、多様なものの見方や感じ方を知るために、友達との交流場面を設定する。友達との交流場面においては、絵を見たときの着眼点や評価の違い、筆者のものの見方や感じ方についての考えの違いを交流の柱として、グループ活動を設定する。これらの活動を通して、作品の見方には様々な着眼点があることや、人それぞれに捉え方や感じ方が異なることに気付き、音楽科や図画工作科の鑑賞活動に生かしていくことが期待できる。

【研究内容3 高まりを自覚させる振り返り】

単元の学習を通して身に付けた力や学びの高まりを自覚させるために、振り返りシートを活用する。単位時間ごとの振り返りを積み重ねるとともに、単元の終わりには指導目標に関連する項目で学習を振り返り、次の学習「この絵、私はこう見る」への意欲につなげていく。

4 単元の指導目標及び評価規準

(1) 単元の指導目標

- 絵巻物に対する筆者の考えに興味をもち、文章を読むことができる。 (関心・意欲・態度)
- 絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉え、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 (読むことウ)
- 文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ (オ))

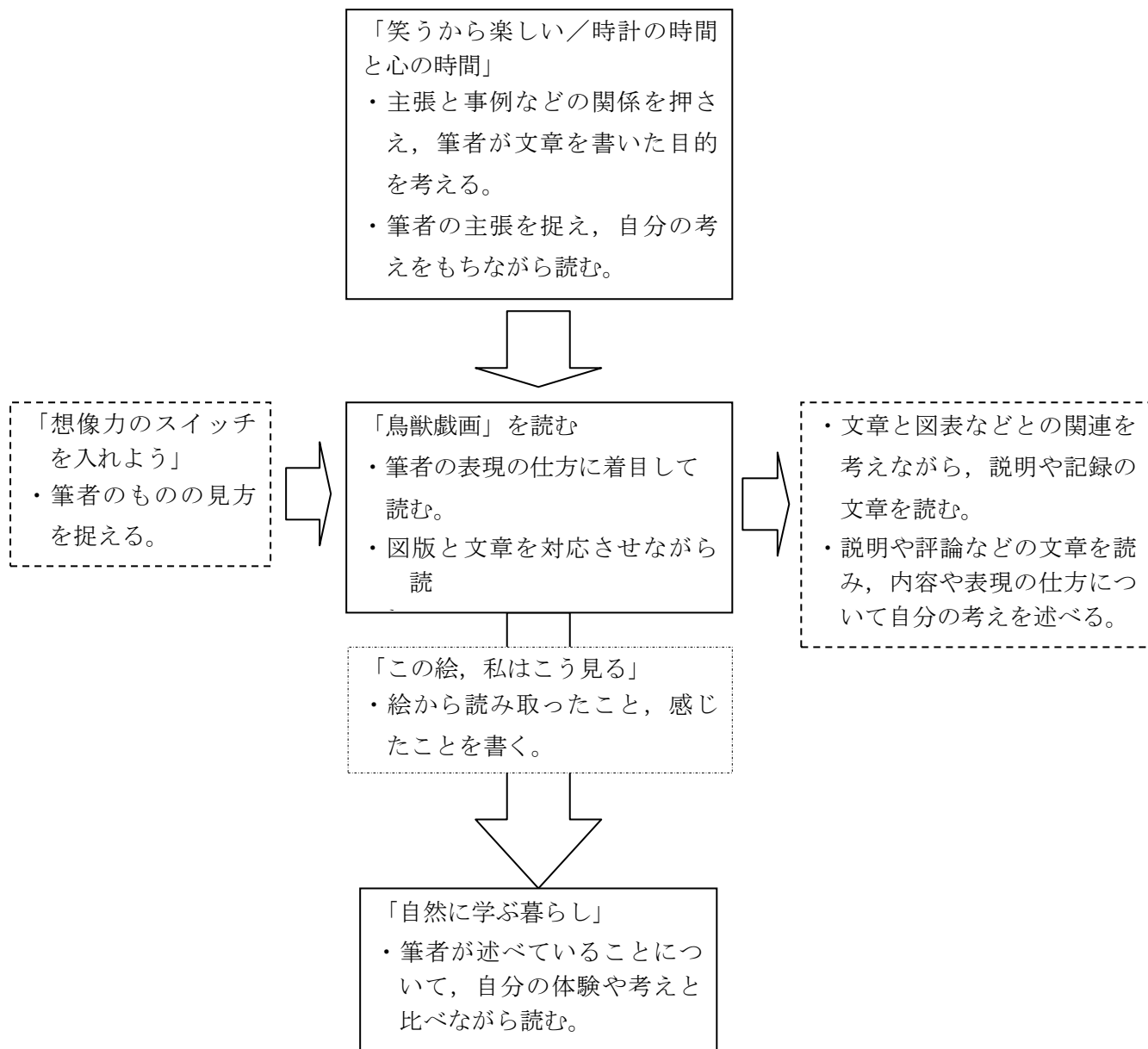
(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・絵巻物に対する筆者の見解に興味をもち、文章を読もうとしている。	・筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているのかを捉えている。 ・筆者の意図と表現の工夫との関連について考えている。 ・自分と他者とのものの見方や感じ方の共通点と相違点を明らかにし、自分の考えを深めている。	・文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。

5 単元の系統性
5 学年

6 学年

中学1, 2年



6 単元の指導計画及び評価計画（7時間扱い）

段階	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一次 2 時間	<p>① 題名から、絵を「読む」ということはどういうことか考える。</p> <p>・ P137 の絵を見て感じたことをノートにまとめ、筆者のものの見方や感じ方との違いに気付く。</p> <p>② 学習の見通しをもち、学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を読む前に、P137の絵を提示し、絵を「読む」ことを体験させる。 ・感想を交流し、見方や感じ方に友達との違いがあることや、感じたことを表現することが難しいことに気付かせる。 	<p>【関】絵を「読む」ことに興味をもち、自分の感じ方と筆者の見方や感じ方を比べながら読み、感想を書いている。(発言・ノート)</p>

二次 3 時 間	③ P144 に示された視点に沿って、文章と絵を対応させながら読む。	・筆者が絵のどのような事実を根拠として、解釈したり評価したりしているのか、本文に線を引かせる。	【読】 絵のどの部分を取り上げ、何に注目し、絵や絵巻物をどう評価しているかについて、読み取っている。(ノート)
	④ 絵や絵巻物に対する筆者の評価に対し、自分の考えや感想をまとめる。	・「絵」で読んだのと同じように、「絵巻物」についても本文に線を引かせる。	【読】 読み取った筆者の評価や表現の仕方に対し、自分の考えをまとめている。(ノート・発言)
	⑤ 表現や構成の工夫を見付ける。(本時)	・それぞれの表現や構成の工夫が、どんな効果を上げているかを捉えさせる。	【読】 表現や構成の工夫について、その効果をまとめ、話し合っている。(ノート・発言) 【言】 文末表現や助詞の使い方などを意識して読んでいる。(発言・ノート)
三次 2 時 間	⑥ 筆者のものの見方や感じ方と自分の感じ方を比べる。	・既習の「着眼点」を意識させて、自分の考えをまとめさせる。	【読】 「鳥獣戯画」の絵について、自分の考えをまとめている。(ノート・文章)
	⑦ P140L9 に対する自分の考えを 200 字程度でまとめる。		
	⑧ 書いたものを読み合い、感想を伝え合う。	・自分と友達の見方・考え方を比べながら読むようにさせる。	【読】 互いのものの見方を交流している。(ノート)

7 本時の指導

(1) 本時の目標

考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫について考えることができる。

(2) 評価規準

観点に沿って、表現や構成の工夫について気付くことができる。

(努力を要する児童への支援：筆者がなぜそのような書き方をしたのか、書き出しや文末表現から受ける印象を考えさせる。)

(3) 思いをもって伝え合う言語活動について

① 目的と読みの視点を明らかにした活動について【言語活動1】

目的・・・筆者が、自分の考えを読者に伝えるためにしている表現や構成の工夫を捉えるために読む。

読みの視点・・・筆者が伝えたいことをいかにして表現しているか、教科書P144「学習」で示された観点をもとに、表現や構成の工夫をまとめる。

② 考えを形成し交流し合う活動について【言語活動2】

・表現や構成の工夫について考えたことをグループで交流する。グループで話し合ったことも含めて学級全体で話し合い、考えの深まりや高まりを実感させる。

(4) 展開

段階	学 習 活 動	○支援の手立て ★評価
みとおす 5分	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 筆者が、自分の考えを読者に伝えるために、表現や構成でどんな工夫をしているのだろう。 </div> 3 学習の流れの見通しをもつ。	○文章と絵を対応させながら読み取ってきたことを想起させる。
ふかめる 35分	4 学習場面を音読する。 5 教科書P144「学習」で示された観点をもとに、表現や構成の工夫をまとめる。 (1) 書き出しの工夫・文末の工夫がされているところを学級全体で確認する。 (2) それぞれの効果について自分で考える。 ㊦ 書きだしの工夫 ・調子がいい・引き込まれる ㊧ 文末の工夫 ・生き生きとした感じ ㊨ その他の工夫 ・呼びかけや話し言葉の口調が多く、読みやすい (3) 考えたことをグループで交流する。 (4) 表現や構成の工夫を全体で確認する。	○どんな工夫があるかを意識しながら音読させる。(指名読み) ○(2)で全員が取り組めるよう、書き出し・文末の工夫がされているところを全体で確認する。 ○㊦㊧㊨の工夫について、どんな効果があるのか、叙述をもとに自分で考えさせる。【言語活動1】 ○早く終わった児童には、「その他の工夫」まで考えさせる。 ★筆者が、自分の考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫について考えている。【読】(ワークシート・発言) ○自分の考えを読者に伝えるために、表現や構成の工夫をしていたことを確認する。【言語活動2】
ふりかえる 5分	6 本時の学習を振り返る。 7 次時の学習を予告する。	○表現や構成の工夫について気付くことができたか・話し合っただけ気付いたことや考えたことをワークシートで振り返る。 ○『鳥獣戯画』の絵について、自分の考えをまとめることを確認する。

(5) 板書計画

